

特定非営利活動法人日本水フォーラム

令和3年度 評議会 活動報告

令和3(2021)年12月14日(火)

【活動報告】第4回アジア・太平洋水サミットに向けた準備活動(1)

2022年4月23-24日熊本開催に向けて、国内外関係機関と開催形式、成果物に関する議論、関連文書ドラフト作成

<具体的な活動内容>

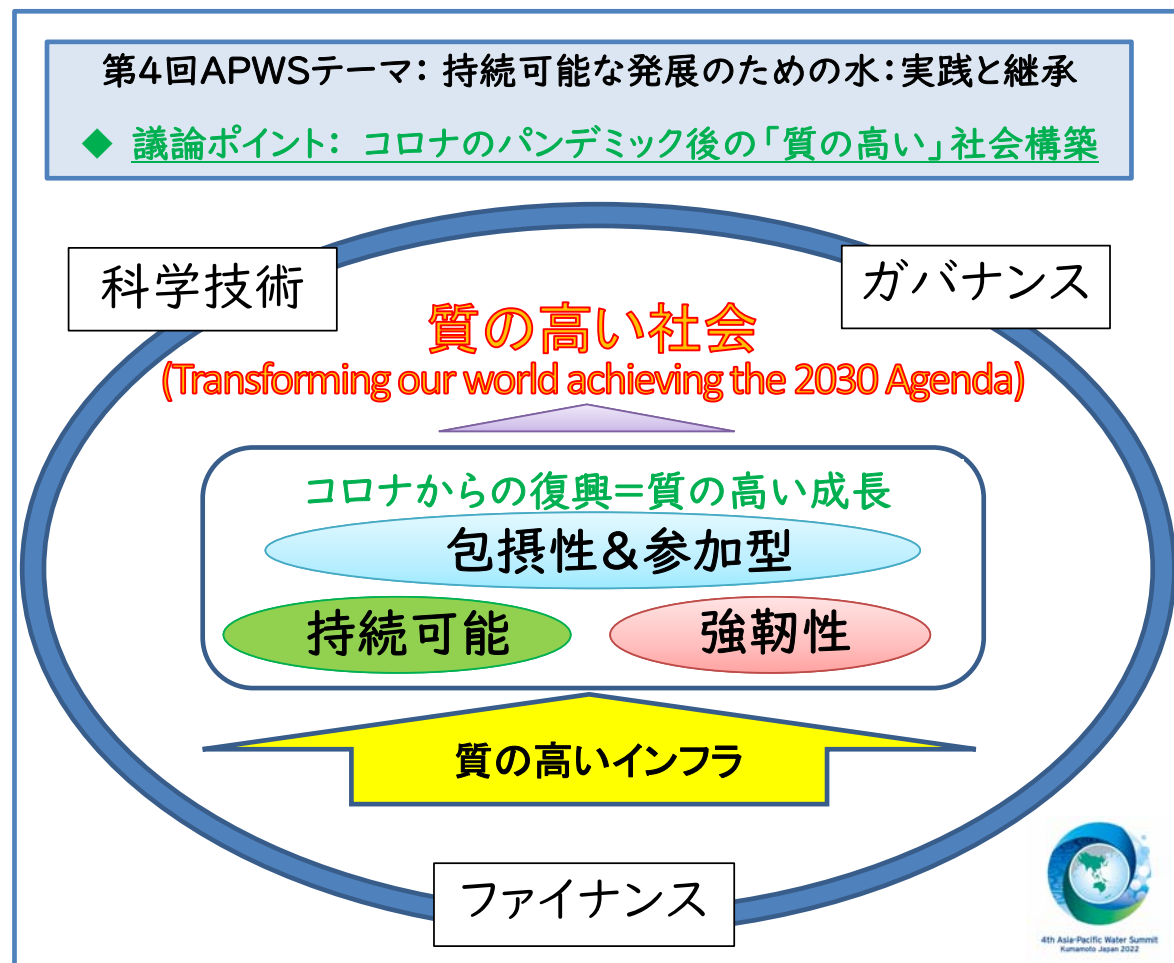
- APWF執行審議会の開催(7月・10月オンライン)
- 第4回APWS合同実行委員会の開催(7月書面・10月オンライン)
- JWF・熊本市からなる合同運営委員会の開催(8月・11月オンライン)
- 関係省庁等、国内関係機関との定例会(3週間に1度)
- スtockホルム世界水週間(8月オンライン)における4つのテーマ別議論、行動提言の発信
- APWFウェビナーの開催(昨年9月以降12回実施)
- JWFウェビナーの開催(2021年4月より5回実施)

◆ 成果物:

- [熊本宣言](#): 首脳級の決意文書(各国と調整)

熊本宣言を受けて、各行動の実施に関する分科会、分野横断統合セッションを開催。

- **議長サマリー**: 9つの分科会で議論したこと、更にそれを取りまとめる4つの統合セッションでの議論の結果を踏まえ、今回サミットで行われたことの総括
- アジア・太平洋地域の**先進事例集、各組織のロードマップ集**



【活動報告】第4回アジア・太平洋水サミットに向けた準備活動(2)



2022年4月23-24日熊本開催に向けて、国内外関係機関と、分科会、統合セッションの開催、成果発信準備

◆ 9つの分科会



テーマ	主催・共催機関
1: 水と災害/気候変動	【国内機関】 ICHARM、文部科学省、環境省、水と災害ハイレベルパネル (HELP) 事務局 【国際機関】 アジア開発銀行 (ADB)、世界水パートナーシップ (GWP)、国際水管理研究所 (IWMI)、国際山岳開発センター (ICIMOD)、国際自然保護連合 (IUCN)、太平洋共同体事務局 (SPC)、国連ハビタット (UN-HABITAT)
2: 水と食料	【国内機関】 農水省 【国際機関】 IWMI, アラル海救済国際基金 (EC-IFAS)
3: 水供給	【国内機関】 国際協力機構 (JICA) 【国際機関】 ウォーター・インテグリティ・ネットワーク, UN-HABITAT
4: 衛生・污水管理	【国内機関】 国交省 (下水道部)、環境省 【国際機関】 UN-HABITAT
5: 水と環境	【国内機関】 国交省 (河川環境課) 土木研究所 【国際機関】 ユネスコ アジア・太平洋地域科学局, EC-IFAS, GWP, IUCN
6: 水と文化と平和	【国内機関】 政策研究大学院大学 (GRIPS) 【国際機関】 ユネスコ, GWP
7: 水と貧困/ ジェンダー	【国内機関】 東京大学未来ビジョン研究センター 【国際機関】 GWP
8: 地下水を含む健全な水循環	【国内機関】 内閣官房/国交省 (水資源部) 熊本大学 【国際機関】 (調整中)
9: ユースによるリーダーシップ・イノベーション	【国内機関】 ユース水フォーラム九州、九州大学 【国際機関】 ADB (Youth for Asia), GWP

◆ 4つの統合セッション

1. 科学技術
2. ガバナンス
3. ファイナンス
4. 水関連SDGsとアフターコロナへの対応

第4回APWSの成果を、国連 国際行動の10年「持続可能な開発のための水」中間レビュー (2023年3月)等に発信

【活動報告】第9回世界水フォーラムへの参画に向けた活動

- 日時: 2022年3月21日(月)-26日(土)
- 開催地: セネガル・ダカール
- テーマ: 平和と発展のための水の安全保障



第9回世界水フォーラムの構成とJWFの取組み

	説明・種類	JWFとしての取組み(予定)
テーマプロセス	水の安全保障と衛生	1.F「気候変動と自然災害に対する強靱性と適応能力の強化」テーマでの発信・インプット(内閣官房水循環政策本部事務局、国土交通省と連携) ・「戦略、計画、能力向上を通じた強靱性と適応の改善」セッションの共催 ・「データと知識を通じた強靱性の改善」セッションへの参加
	農村開発	関連セッションの情報収集
	協力	3.F「セクターを超えた多様な利害関係者の対話とパートナーシップの向上」をテーマに、政治対話を行うセッションを開催(3Fアクショングループメンバー機関とアジア・太平洋水フォーラムメンバー機関との連携)
	手段とツール	関連セッションの情報収集
展示会		産官学民の日本チームでの出展を計画(関係省庁・JICAと連携) ユースの取組みを含め発信
各種水大賞		京都世界水大賞2022の実施(WWC、京都市と共催)

【活動報告】京都世界水大賞に関する活動

「京都世界水大賞」は、世界で唯一、途上国の水問題に向けて優れた草の根活動を続ける団体を顕彰する、国際的な賞である。

2003年、第3回世界水フォーラムが日本(琵琶湖・淀川流域)で開催されたことを契機に、京都市と世界水会議により創設された。以来、3年に一度開催される、世界水フォーラムに併せて実施されている。

京都世界水大賞2022年実施報告

- ◆募集期間:20年9月7日~21年4月30日
- ◆応募件数:50件、23ヶ国
- ◆主催 :WWC&京都市&JWF
- ◆審査基準「文化」と「コミュニティ」に寄与し、持続可能な活動であるか という視点で審査

京都世界水大賞大賞団体

※表彰式:22年3月26日(土)

PRAGATI インドの南オリッサ州のNGO

太陽光灌漑システムを導入し、野菜や食用作物を栽培。
太陽光発電による濾過システムの設置を通じて、安全な飲料水を確保



【活動報告】ユースに関する活動

(1) ユース活動の背景

- 2022年実施の高校新学習指導要領で「**地理総合**」が共通必修科目化
- 「水」を地理総合の主題として学習することは有効
- 「水」は国際的に共通の課題であり、「グローバルに活躍する人材の育成」にもつながる。

(2) ユース水フォーラム九州の活動

- 第4回アジア・太平洋水サミット (APWS) の開催を契機とし、水関連分野を中心に、将来、世界で活躍できる若い世代の人材育成を目的とし、九州地方 8 県の高校生世代に参加してもらうプラットフォームである「**ユース水フォーラム九州**」を発足
- 水に関連する活動を実践したり、水にまつわる社会的課題等を学んだりした成果をまとめた動画(3分、英語)で参加してもらい、第4回APWSや第9回世界水フォーラムにおいて、アジア太平洋地域の水問題について**高校生の視点から情報発信(応募動画数:25 ※12/2時点)**
- 日本の高校生の水関連分野における活動や動画を、**専用WebサイトやSNSにて国際的に情報発信**

(3) 第4回APWS以降の中期計画

- 動画募集は毎年恒例化し、応募動画のライブラリー数を増やす
- 交流機会としてのイベント(リアル・オンラインともに)を企画・実施
- 3年程度に一度の企画を予定(世界水フォーラム、APWSの開催に併せて)



ユース水フォーラム 動画募集について 動画募集要項 ユース水フォーラムについて English



未来の水のために
ワシたちが**できること**。

ユース水フォーラムとは

「水」は地球規模の課題であり、また、日本各地域の課題です。国連の持続可能な開発目標 (SDGs) において、水は様々なゴールやターゲットに関連するテーマであり、水に関わる課題の解決には、世代を超えた取組が必要です。そこで、次世代を担う高校生世代の皆さんに、ご参加頂くプラットフォーム「ユース水フォーラム」を立ち上げました。持続可能な未来は、皆さんが「水」といかに向き合うかにかかっています。

<https://www.waterforum.jp/ywf/>

